

熊本高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	生涯スポーツⅠ	
科目基礎情報							
科目番号		LK2106		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		情報通信エレクトロニクス工学科		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		使用しない					
担当教員		岩田 大助,荒井 久仁子,錦井 浩樹					
到達目標							
1. 技能の向上ができる。また、技能向上のための練習方法を実践できる。(生涯スポーツにつながるよう) 2. ルールを理解し、審判法を習得することができる。 3. 社会的態度(規則を守る、責任感、協調性、安全性)を身につけ、行動することができる。 4. わが国の健康問題を理解し、生涯にわたり健康な生活を送るための知識を身につけ、日常生活で実践ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実技試験		基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し積極的に練習や試合を運営することができる。経験者はチームやクラスメイトに指導をし、被指導者の技能を高めることができる。		基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し練習や試合に参加できる。経験者はチームやクラスメイトに技能向上に関する指導をすることができる。		基本的な技術を身につけたり、ルールを覚えたりすることが殆どできず、練習や試合に対して消極的な態度で参加している。経験者でありながら、チームやクラスメイトに技術向上に関する指導や競技や試合運営及び補助を行わない。	
筆記試験		健康に生きていくために必要な知識と健康を害する行動や環境への対処方法を理解し、試験で総合的な考察を説明(記述)することができる。		健康に生きていくために必要な知識と健康を害する行動や環境への対処方法の基礎知識を覚え、試験で答えることができる。		健康に生きていくために必要な知識と健康を害する行動や環境への対処方法の基礎知識を覚えたり、試験で答えたりすることができない。	
取り組み方・安全配慮・協力		授業や各種目のルールに則って安全に行動ができる。また、授業で使う道具や施設の準備を行ったり、それらを安全に配置したりすることができる。 他者と協力・強調してチームのために参加・応援・補助をする活動ができる。		授業や各種目のルールに則って安全に行動ができる。また、授業で使う道具や施設を適切に使用することができる。 自分本位の活動にならないように、参加・応援・補助をすることができる。		授業や各種目のルールに則った行動や安全に配慮したプレー・活動ができない。また、授業で使う道具や施設を安全に適切に使用しない。 個人活動の割合が多くなったり、自分本位の活動ばかり行ったりする。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		生涯スポーツⅠでは、走・跳・投・泳をバランスよく配合した種目で構成している。スポーツ分野では運動能力の基礎となる動作や体力を高め、グループ学習では礼儀や作法・態度を学ぶ。保健分野では自分の生活に関わる病気や運動習慣、心と体の在り方について学ぶ。運動の楽しさや身体との付き合い方、生涯にわたって心身の健康を維持するための基本的な考え方を身につけることは、学生諸君のより良い学生生活、より良い卒業後の生き方につながる鍵となる。					
授業の進め方・方法		生涯スポーツⅠでは、以下の内容を実施する 【実技】選択実技：ソフトボール、卓球、バレーボール、サッカー、バスケットボール 全員必修：水泳、陸上競技長距離種目 体力テスト：新体力テスト(文部科学省のテスト) 天候や施設の状況によって実施する週数は変更になることもある。 各種目では、基礎体力向上のための健康維持に必要な最低限の体力を確保するために、トレーニングを兼ねた準備体操を行う。 その後、実技へと移行していく。授業形態はグループでの活動が中心となるため、始めの説明を理解しながら聞き実技に移る。 得意・不得意がある場合は、学生同士で教え合うことで、理解を深め技能向上を目指す。 相談したりしながら学習の質を高め、ゲームや記録測定、実技試験に向けてステップアップしていくかたちをとる。					
注意点		参考書(ステップアップ高校スポーツ(大修館書店))において各自の選択種目および必修種目の予習や復習を行うことはもちろんのこと、図書館にも関連図書があるので自身で資料を集め理解を深めたり、方法を学んだり、技術の向上に努めてもらいたい。 生涯スポーツでは、受講者が運動や健康、命の大切さ、生命活動の神秘を再認識し、授業で学んだことを日常生活で実践できるようになってもらうことを願っている。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	全体オリエンテーション 体力テスト：新体力テスト①(屋内種目)		シラバスの概要の説明 新体力テストのうち、屋内実施可能種目を行う		
		2週	体力テスト：新体力テスト②(屋外種目)		新体力テストの屋外種目を行う		
		3週	実技 1 導入 基本動作やルールの説明と技術練習、簡易ゲーム		選択種目の基本的なルールと基本動作(個人技術、集団技術)を理解する		
		4週	実技 2 基本動作や技術練習と簡易ゲーム		基本的なルールと基本動作(個人技術、集団技術)を理解したうえで、簡単なゲームや実践を行うことができる ゲームの審判方法を理解する		
		5週	実技 3 グループでの基本練習、技術練習とゲーム		グループで協力して基本動作(個人技術、集団技術)の練習をすることができる ゲームの運営方法を理解する 審判方法を理解し実践することができる		

後期		6週	実技 4 グループでの技術練習とゲーム、ゲーム運営	グループで協力して集団技術の練習をすることができる ゲームの運営方法を理解する 審判方法を理解し実践することができる
		7週	実技 5 グループでの専門的な練習とゲーム、ゲーム運営	グループで協力して自分たちに必要な練習を考えることができる。またそれを実践することができる。 ゲームの運営方法を理解し実践することができる 審判方法を理解し実践することができる
		8週	<前期中間試験>	ソフトボール、卓球、バレーボールから1種目を選択し、受験する
	2ndQ	9週	水泳 1 オリエンテーション、泳力測定（25m）	島国の国民に必要とされる泳力について理解する 水泳授業での危険性と危険行動について理解する 自分の泳力を知る
		10週	水泳 2 グループ分け 泳力別練習① 泳力別に2～3グループに分かれて練習	25mプールで、往路はクロール、復路は平泳ぎを行う 25m泳ぎきることを意識する
		11週	水泳 3 泳力別練習② 泳力別に2～3グループに分かれて練習	同上
		12週	水泳 4 泳力別練習③ 泳力別に2～3グループに分かれて練習	25mプールで、往路はクロール、復路は平泳ぎを行う 25m正確なフォームを意識する
		13週	水泳 5 泳力別練習④ 泳力別に2～3グループに分かれて練習	同上
		14週	水泳 6 泳力別練習⑤ 泳力別に2～3グループに分かれて練習	25mプールで、往路はクロール、復路は平泳ぎを行う 25m速く泳ぐことを意識する
		15週	水泳 7 泳力別練習⑥ 泳力別に2～3グループに分かれて練習	同上
		16週	<前期末試験>	クロールと平泳ぎ、各1本ずつ25mの記録測定
	3rdQ	1週	実技 1 基本動作やルールの説明と技術練習、簡易ゲーム	選択種目の基本的なルールと基本動作（個人技術、集団技術）を理解する
		2週	実技 2 基本動作や技術練習と簡易ゲーム	基本的なルールと基本動作（個人技術、集団技術）を理解したうえで、簡単なゲームや実践を行うことができる ゲームの審判方法を理解する
		3週	実技 3 グループでの基本練習、技術練習とゲーム	グループで協力して基本動作（個人技術、集団技術）の練習をすることができる ゲームの運営方法を理解する 審判方法を理解し実践することができる
		4週	実技 4 グループでの技術練習とゲーム、ゲーム運営	グループで協力して集団技術の練習をすることができる ゲームの運営方法を理解する 審判方法を理解し実践することができる
		5週	実技 5 グループでの専門的な練習とゲーム、ゲーム運営	グループで協力して自分たちに必要な練習を考えることができる。またそれを実践することができる。 ゲームの運営方法を理解し実践することができる 審判方法を理解し実践することができる
		6週	実技 6 グループ練習とゲーム（大会（リーグ）運営）	グループで協力して自分たちに必要な練習を考え、実践することができる ゲームの運営方法を理解し実践することができる 審判方法を理解し実践することができる
		7週	実技 7 グループ練習とゲーム（大会（リーグ）運営）	同上
		8週	<後期中間試験>	サッカー、バスケットボールから1種目を選択し、受験する
	4thQ	9週	陸上競技長距離 1 オリエンテーション、校内コース確認	陸上競技長距離種目として、校内持久走コース（男子は4km、女子は3km）の確認を全員で行う
		10週	陸上競技長距離 2 自分自身の持久力を知る（Pre測定）	授業前の持久力を知るための測定を行う
		11週	陸上競技長距離 3 自分自身に最適なペースを見つける①	スタートからゴールまで無理なく一定のペースで走破できるペースを見つける
		12週	陸上競技長距離 4 自分自身に最適なペースを見つける②	同上
		13週	陸上競技長距離 5 効率的なフォームを見つける①	腕振りや足の振り上げ、振り下ろし、接地や離地等、走動作中の身体の隅々に意識を向け、案に走れる効率的なフォームを見つける
		14週	陸上競技長距離 6 効率的なフォームを見つける②	同上
		15週	陸上競技長距離 7 ペースを設定し、その通りに走る①	事前に1周毎のペース（タイム）を設定し、その通りに走ってみる
		16週	陸上競技長距離 8 ペースを設定し、その通りに走る②	同上

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合						
	実技(1)	実技(水泳)	実技(2)	実技(持久走)	取り組み	合計

総合評価割合	20	20	20	20	20	100
基礎的能力	10	10	10	10	0	40
専門的能力	5	5	5	5	0	20
分野横断的能力	5	5	5	5	20	40